

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

| |
|---|
| 中学校区におけるめざす子ども像 |
| 人権意識を高く持ち、特別支援教育を通して、自己肯定感や他者への思いやりのある児童生徒の育成 |

堺市立 泉北高倉小学校

校長 川上 寛

| |
|---|
| 令和7年度 重点目標 |
| (1)自分も他者も大切にす心の教育の推進 (2)習得、活用、探求を工夫した深い学びの充実 (3)人権教育・障がい者理解を基盤とした個に応じた指導の充実 (4)学校群を核とした特別支援教育の推進 |

| | |
|--|--|
| <p>確かな学びの現状 児童は課題に対し真摯に取り組み、学習したことを理解活かそうとする姿が伺える。一方で、各種調査結果では「相手意識をもって伝え合うこと」「自分と違う意見について考えることは楽しい」に課題がみられる。学びの質をさらに高め、表面的な理解から本質的な深い学びへと発展させるためには、場面に応じたコミュニケーション形態(ペア・グループ・全体)を活用し、児童が主体的に参加できる対話的な学習活動が必要である。特に、「必然性のある対話」を通じて、他者の視点から自らの考えが再構築できる、よりよい経験の積み重ねである。こうした経験は、学力向上だけでなく将来社会で必要とされる協働性や創造性の基盤を形成するものであり、学校全体での実践と研究が求められる。</p> | <p>豊かな心・健やかな体の現状 本校の児童は全体的に明るく素直で活動的であり、友だちにも優しく、困っている人を助けようとする姿も多く見られるようになっていく。しかし、自尊感情や他者とのよりよい関係づくりに課題が見られる児童も少なくない。そのため、人権尊重を基盤とした教育を充実させ、豊かな人権感覚の育成を図ることが求められる。 一方、児童の体力向上にも継続した取り組みが必要である。生涯にわたり健康に過ごす身体づくりのためにも、体育的行事などの学校教育活動全体をととし、体を動かすことを親しみ楽しむ機会を設け、基礎体力向上の取り組みを推進していく。</p> |
|--|--|

| 大項目 | 中項目 | 具体目標 | 具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組) | 判断基準 (評価のものさし) | 評価方法 | 評価時期 | 進捗確認 (9月) | 達成状況(年度末) | | | |
|------------|---------------------|--|--|--|-------------------------------------|------|--------------|---|--|---|--|
| | | | | | | | | 自己評価 | 学校関係者評価 | | |
| 確かな学び | 基礎基本の定着 | 事実的な知識の習得と知識の概念的 理解の育成 | 知識・技能の習得・育成のため、児童の理解と進度に 応じた学習課題の提示 | 平均正答率が全国、本市より上回る。 | 全国学力・学習状況調査 堺市学習・生活状況調査 学年テスト | 年度末 | 概ね良好 | ○ | 平均正答率は、国語・算数ともに全国、本市ともに上回り、良好であった。 | ○ | ◆日頃の授業が、子どもたちの確かな力になっていると思われる。 ◆オンライン学習は家庭の事情もあり習慣化の継続は必要であろう。学習課題は、社会見学のまとめや学習したことの感想を書くことなども含めるとよいのではと思う。 ◆授業研究、指導力向上に向けて、ますます研鑽されることに期待する。 |
| | | | 家庭で行うリモート学習の習慣化 | 宿題等の家庭学習をリモートで月1回以上行う | 実施状況 | | | ○ | 今年度も、毎月1週間の持ち帰り週間を設け実施した。オンライン学習の習慣化にはまだ至っていない。 | ○ | |
| | 授業改善 | 相互の多様な視点や考えを尊重した、協働的な学びによる授業づくり | ●考えたり判断したりしたことを、相手意識をもち、わかりやすく伝え合い、聴き合う授業づくり 前単元でわかっていたりできたりしたことをふりかえり、生かすことができる学習課題の提示 考えたことをまとめたり、学習のふりかえり書いたりする十分な時間の確保 | 「国語・算数の勉強は好きですか」肯定回答率80%以上 「国語・算数の授業はわかりやすい」肯定回答率85%以上 「授業でわかったことや気づいたことをノートにまとめた」肯定回答率80%以上 | 学校教育自己診断 | ○ | 概ね良好 | △ | 「国語・算数の勉強は好きですか」肯定回答率は、国語75%、算数70%となり、80%には至らず、課題がみられる。 「国語・算数の授業はわかりやすい」肯定回答率は、国語85%、算数89%で、87%となり、良好である。 「この授業でわかったことや気づいたことをノートにまとめた」肯定回答率80%となり、良好である。 | △ | ◆1.2年生の状況を把握できていることに、細やかな評価を感じる。 ◆好きではないと否定的な回答を素直に答えることができることが評価できる。 ◆具体的な取組内容に対する判断基準が妥当ではないため、次年度は変更を要すると考える。 ◆学習内容の定着に課題がある児童へのフォローアップについて、より一層の研究と実践に期待する。 |
| 豊かな心・健やかな体 | 心の教育の充実 | 多様性理解と自他の尊重に基づく、豊かな人権感覚の育成 | ●学校教育全体を通じて、豊かな人権感覚を醸成するための授業づくりおよび授業改善 | 「人の気持ちができる人間になりたいと思うか」肯定回答率90%以上 | 学校教育自己診断 | 年度末 | 概ね良好 | ◎ | 「人の気持ちができる人間になりたいと思うか」の肯定回答率が96%となり良好である。 | ◎ | ◆非常に良好である。よい人間形成に寄与していると考え。今後の継続を期待する。 ◆授業や係活動等を通して主体性のある願いになっているのは素晴らしい。 ◆日常の子どもの表情や行動で気になることを見落とさないように心掛けてほしい。 ◆評価の低い6%に焦点をあてた自己評価を大切にしてほしい。 ◆来年度に期待をしている。 |
| | | | 自他ともに尊重できる心情の涵養を図れるよう、係、委員会活動、縦割り活動など、互いのよさを認め合える活動の実施 | 「人の役に立つ人間になりたいと思う」肯定回答率が90%以上 | | | | ◎ | 「人の役に立つ人間になりたいと思う」の肯定回答率が96%となり良好である。 | ◎ | |
| | | | ●安心して暮らせる環境づくりで未然防止に取り組む。年3回以上の「いじめアンケート」を実施するとともにSC、SSWを活用した迅速な対応 | 「先生は、いじめなどわたしたちが困っていることに対応してくれる」肯定回答率100% | | | | △ | 肯定回答率は94%であったが、全員が安心した学校生活が過ごせるよう、今後も改善への取組を要する。 | △ | |
| 体力向上 | 児童の身体活動への自発的参加意欲の育成 | 体育の授業に加え、体育的行事等とおした運動意欲の向上(スポーツテスト、かけ足記録会) | 「外で遊んだり運動したりなど、体を動かすことが好きだ」肯定回答率80%以上 | 学校教育自己診断 | 年度末 | 概ね良好 | ○ | ・体育授業に加え、スポーツテスト、体育参観、連合運動会(6年)、駆け足と記録会といった体育的行事に取り組んだ。 「外で遊んだり運動したりなど、体を動かすことが好きだ」の肯定回答率が87%となり概ね良好である。 | ○ | ◆児童が役割をもちながら参加していることに頼もしさを感じる。 ◆良好である。 ◆体育参観等で児童ががんばって取り組んでいることが評価できる。 ◆児童が何のために運動するかを理解しながら取り組むことは、今後の生活や学習に役立つと思う。 | |
| | | 学習課題と内容および運動量が保障された、楽しさを実感できる活動 | | | | | ◎ | | ◎ | | |
| 地域協働 | 信頼される学校 | 家庭、地域、中学校区との連携を通じた、協働性に基づく信頼関係の醸成 | 学校ホームページや校報、ほけんだより、生指だより等を活用し、本校および中学校区の教育活動の現状と成果等の発信 | 「子どもの様子を、ホームページや学年通信などで知ることができる」肯定回答率90%以上 | 学校教育自己診断 | 年度末 | 概ね良好 | △ | 「子どもの様子を、ホームページや学年通信などで知ることができる」の肯定回答率が81%となり課題が見える。 | ○ | ◆概ね良好である。 ◆各学年の「総合的な学習の時間」の取組をHPで知ることができた。 ◆HPのアンケート回答が「内容」なのか「見る機会」のどちらなのか不明であった。 ◆地域行事に保護者と児童が参加してもらえ方策が見つければありがたい。 |
| | | | ★特別支援教育を軸にした教育活動の推進する学校群連携 | 「保護者や地域の人々と話をする機会を適切に設けている」肯定回答率80%以上 | | | | ◎ | 「保護者や地域の人々と話をする機会を適切に設けている」の肯定回答率が90%となり概ね良好である。 | ◎ | |

| | |
|---|---|
| <p>校長より(年度末) 次年度も児童が安全・安心に過ごせる教育環境づくりに取り組み、対話的な学びや人権教育の充実によって自尊感情を高めるとともに、互いの違いを認め尊重し合える関係づくりをすすめる。授業においては、児童が自己の考えを表現し、伝え合う活動を積極的に取り入れ、ともに学ぶことの価値を実感できるよう授業実践を重ねていく。また、総合的学力の向上への研究と実践に努め、教職員が互いに学び合い、授業力を高め合う校内研修を計画する。</p> | <p>学校関係者評価者から(年度末) 全体として概ね良好である。子どもたちが地域の中でも活発に活動している様子がうかがえる。ただ、専科制度や学校群の取組については「わからない」と回答した家庭が多いと感じる一方、教職員数が少ない中での運営は大変であると思う。下校時の児童の安全確保については、何らかの手立てを講じられるよう今後も検討を願いたい。</p> |
|---|---|